観光学入門Ⅰ

科目ナンバリング　TOS-101
選択　　2単位

今野　久子

1. 授業の概要（ねらい）

観光は幅広い分野に関わりをもつ地域・まちづくりの総合的なテーマであり、地域の経済・産業や持続可能な成長に多面的に関わる。「観光学入門」では、観光に関し、浅く広く学びつつ、観光学の重要性と観光学の基本について理解することをねらいとする。

学期ごとの内容構成としては、春学期には総論として、観光研究の基礎、観光の歴史、観光実態、観光政策などに関するテーマを扱う。秋学期には春学期の総論を踏まえ、現代の観光の動向・概況と課題に応じた各論を扱う。

観光学の基礎について総体的に理解を深められるよう、通年での受講が望ましい。

必要に応じ関係者をゲストとして招聘する機会をつくる。

2. 授業の到達目標

本講義の到達目標は下記のとおりである。

①観光の基礎的用語を理解し、その内容や特徴を他者に説明することができる。
②観光の基礎知識に関するポイントを体系的に整理することができる。
③現代の観光に関わる課題に関して、時代の動向に基づき自らの意見を述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業内容を基に各自が作成する振り返りシートが20%、中間試験が40%、期末試験が40%として評価する。

中間試験、期末試験は振り返りシートのみ持ち込み可とする。

4. 教科書・参考文献

教科書

基本的には、講義資料を授業内で配布する。関連資料は授業内で投影・説明した後にLMS上に掲載する。また、参考書として以下の文献も適宜参照されたい。

参考文献

前田勇編著　（2016）『新現代観光総論』　学文社
岡本伸之編　（2010）『観光学入門』　有斐閣
㈶日本交通公社編　（2004）『観光読本（第2版）』　東洋経済新報社

5. 準備学修の内容

観光学は、歴史学や産業、行動学、情報、景観、組織論等の幅広い分野に関わる学問であり、身の回りの社会・経済状況との関わりも強い。授業時間内で得た知見をもとに、各自が関心ある内容を発展的に考察し、関連情報の習得や身近な取組み・各地の事例等の理解に努めること。

6. その他履修上の注意事項

○通年の履修により、観光に関する基礎的知識の総体的な習得に努めることが望ましい。

○講義の妨げとなる行為を厳に慎むこと。特に他の受講学生に迷惑となる私語は退席を願い、評価の減点対象となるので留意してほしい。

○観光に関わる基礎知識の習得は当然であるが、日常的に触れる様々な出来事に関心を持ち、授業で得られた知見と照らし合わせて、観光と地域・社会との関わりを考える問題意識を培われるよう期待している。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　観光学の基礎①
　観光学の対象
【第3回】　観光学の基礎②
　観光の意義と役割
【第4回】　観光の歴史①
　世界の観光の潮流
【第5回】　観光の歴史②
　日本の観光の潮流
【第6回】　観光の志向と動向
【第7回】　観光行動
【第8回】　中間まとめ、中間試験
【第9回】　観光地域・伝統的な観光地
【第10回】　観光資源とテーマ・ニューツーリズム
【第11回】　観光政策①
　政策の変遷
【第12回】　観光政策②
　観光立国
【第13回】　国際観光
【第14回】　観光まちづくり
【第15回】　授業の総括、期末試験
※以上は、受講者の理解関心や進捗等により若干修正する可能性もある。